

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0472200682
法人名	社会福祉法人 常盤福祉会
事業所名	グループホーム多機能型地域 ケアホームつきのき
所在地 (電話番号)	宮城県柴田郡柴田町槻木上町一丁目1番32号 (電話) 0224-56-6661
評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 21年 1月 22日

【情報提供票より】(平成21年 1月 8日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 5 月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	8人	常勤専任1人、兼務12人、非常勤2人、常勤換算6人	

(2)建物概要

建物形態	併設 / ○単独	○新築 / 改築
建物構造	木造造り	
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円
敷金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000円	

(4)利用者の概要(1月 8日現在)

利用者人数	8名	男性	2名	女性	6名
要介護1	0名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.88歳	最低	73歳	最高	92歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	みやぎ県南中核病院・玉瀧医院・飯淵歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

認知症高齢者、障がい者が生活を共にする多機能型地域ケアホームであり、街中に立地している。現状、体力の低下や認知症の進行もあり、入居者の思いや課題の把握が不十分だとして厳しく自己評価し、年度途中から「センター方式」を取り入れ、プランへのより現実的な反映に努力している。「重度化、終末期」への対応では、若い障がい者やその家族への気配りもうかがえるが、継続して家族等への理解に向けて話しあっている。また、家族、地域の人々が参加した勉強会を実施し、新年会、忘年会、春の交流会、芋煮会など時に地域の人をも招待して交流しており、今後も継続して定期的の実施したいとの姿勢を評価したい。管理者は訪問を入居者に伝え、迎えてくれた入居者のくつろいだ様子や笑顔が印象的だった。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	①市町村との連携では「ネットワーク会議」での部会において、職員による一日の交換研修実施に向けて取り組みを進めている。②重度化や終末期に向けた方針の共有では夜間帯における地域での協力医も確保できたなど進展がある。方針の作成、共有、関係機関との継続した連携などへの取り組みを継続して強化しようとしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員がそれぞれ記入し、管理者がとりまとめている。記入後の課題分析や改善計画を共有する上での全体会議の時間作りや工夫に少し不足が感じられた。外部評価後に運営推進会議に報告することとしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2か月毎に定期開催し、「ヒヤリハット」の事例報告や再発防止について検討している。災害時のホームの体制作りでは夜間等想定し、職員への緊急通報自動発信装置への登録をしている。また、交通渋滞などで駆けつけに限界があるとして、近隣住人への協力をお願いし、先ず運営推進委員である区長、民生委員を緊急時通報装置に登録できることとなった。隣接しているデイサービスとの協力関係も工夫している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時、通院時、ケア担当者は要望、意見の引き出しや心配事を聞いている。また、気兼ねのない相談に配慮して玄関に記入用紙、意見箱を置いている。家族が月毎の「グループホームたより」の送付や変化時の電話連絡、金銭管理報告、ケアプランの説明などホームの対応に満足し、信頼して任せている様子もうかがえるが、より意見の反映に努めたいとして運営推進会議への家族全員の出席等も考えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会への加入に取り組んでいる。保育園児、小学生、中学生との交流や子育て世代、シルバー世代とのボランティアを通じての関わりもできつつある。入居者が出掛けでの連携、交流は難しくなっているが、ホームに来てもらい、芋煮会と一緒に楽しんだり、勉強会を実施したりしている。散歩途中で声をかけていただいたり、ホームに野菜を届けていただくこともある。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	多機能型地域ケアホーム「つきのき」として開設時に法人の基本理念に添い、独自の理念を掲げている。地域と積極的に関わり、笑いの絶えない和みのある生活への支援をうたったものであるが、入居者の状態変化に伴い、今後見直し検討もしていきたいとしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、ロッカールーム等、職員の目に触れる場所に理念を掲げ、日々の申し送り時には復唱すると共に、管理者は折に触れ理念の実践と理解について話し、職員等との共有に取り組んでいる。また職員は、理念を記載したカード[是]を常に携帯し振り返りの手段としている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会への加入に取り組み、ボランティアによるシルバー世代との交流もある。保育所園児の訪問や小学校運動会への見学、また、中学生の体験学習も受け入れ一緒に1日を過ごしたり、積極的に地域の人々と交流している。隣接するデイサービスへのボランティアによる行事の際には、出掛けて一緒に楽しんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の外部評価結果を運営推進会議に報告している。自己評価の意義を職員は良く理解し、記入にあたっては一人ひとりが取り組み、それらを管理者がとりまとめた。しかし自己評価後に全員で話しあう機会に不足が感じられる。	○	管理者は運営推進員から自己評価について、厳しく評価するのみでなく、良い点もアピールするようにアドバイスされたという。自己評価票への記入後職員全員での話し合い、共有、課題分析など時間をかけて取り組み、改善、実施への工夫と反映を図っていただきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に開催している。「ヒヤリハット」事例報告や再発防止策の検討をし、地域の区長、民生委員に協力をいただき、緊急時通報装置に登録することとしている。入居させ負い目を感じる家族がスタッフから「入居させてくれて有難う」の一言で救われた等の報告もあった。ホームでは今後全家族の出席も検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への出席や独居からの入居者の住民票等、日常業務への相談や町主催の「ネットワーク会議」に出席している。管理者は「認知症サポーター」のリーダー資格も持ち、町事業での派遣機会があれば応じたいとしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「グループホームたより」を発行し入居者の暮らしぶり、行事での様子をお知らせしている。また紙面でケア担当者からの近況報告を一人ひとりについて記載し、家族の安心につなげている。金銭管理の報告についても家族面会時や送付で適切に実施している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に相談、意見記載の用紙と意見箱を置き、相談窓口もホーム、公的機関、第三者委員など電話番号を添えて明示している。家族からの意見、苦情はないが、面会時、交流会、通院時など声がけし、出された意見等を共有し反映に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム開設以来職員の異動は少ない。離職等の際、家族には「グループホームたより」でお知らせしている。馴染みの職員が異動することでの影響については、今後も配慮しようとしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	NPO県グループホーム協議会に加入し、南ブロックとして研修会や委員会活動に参加している。柴田町主催の「ネットワーク会議」、内部研修への参加や外部研修案内書を回覧し、希望による受講、指名での受講など機会の確保に努め、研修後は会議等で全員への情報共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町主催の「ネットワーク会議」で4グループホーム部会での情報や意見交換を行い、春、年末には懇親会などで親睦を深めている。またこの中ではスタッフが1日交換研修するなどの案も出ており、より有益な交流が図られつつある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申し込み時には自宅を訪問し、日常の暮らし振り、健康状態などの把握に努めている。隣接しているデイサービス利用者の入居事例もあるが、日ごろからホーム職員は車椅子使用者の入浴やボランティア慰問の際に出掛けていることもあり、自然に顔馴染みの間柄なので安心し、納得した上で入居開始となっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者を人生の先輩として敬い、生活してきた上での知恵、しきたりについて機会ある毎に聞いている。正月行事の団子木作り、それを下ろす日など、記憶を引き出し皆で話し、教わったことに感謝の意を表わしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の進行もあり、意向や喜怒哀楽の把握が難しくなっているが、嬉しい時、寂しい時、それぞれのサインはあるので、職員は見逃さず支援に努めている。帰宅願望が強い人、他の居室に入り持ち出す人など色々あるが対応を話しあい、思い、意向をより入居者本位にするため、東京センター方式に取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケア担当者や他職員の気付き、申し送り、面会時での家族の意見、意向、受診している医師からの指示、意見書などを反映したケアプランを作成している。入居者のニーズ、希望の把握をより本人に合ったものにしようと、「東京センター方式」に切替え途中である。計画作成担当者は現状に満足していない。	○	計画作成担当者は入居者のケアプラン作成の際、家族の意見、希望の引き出しや「センター方式」の活用、反映が不十分だと認識しており、入居者の重度化にも苦慮している。共生ホームとしての多様な対応や多忙も推察でき、家族の職員への信頼の厚さもうかがえるので今後に期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	面会時にケアプランについて説明し、家族の意見、希望を聞き取り、入居者の状態の変化に合った計画見直しに努力している。途中から「東京センター方式」に切り替えたこともあり、モニタリング、アセスメントについても再度検討し反映に努めている最中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期受診時の通院支援や個別の希望による買物への同行、また馴染みの理髪店にも出掛けている。隣接のデイサービスでの書道教室への参加や子育て世代との交流もある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者全員が馴染みの医師をかかりつけ医としており、2か月毎の定期受診時は概ね家族が付き添っている。受診時にホームではバイタル記録や状態の報告をし、受診後家族は薬を持参し、医師の指示、アドバイスを報告している。夜間などの緊急時には近隣の病院の協力が得られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けたグループホームの対応については、入居契約時に家族に話し、数名については意思確認も行っているが、ホームとしての指針作成や職員間での共有、家族、かかりつけ医、協力医、看護師など体制作りについては準備段階である。	○	若い世代の障がい者との共生ホームであることの難しさも推察でき、重い課題でもあるが、グループホームとしての重度化、終末期に向けた方針の統一を早急に図り、指針を作成し、その後積極的な体制作り、協力体制作りに努めていただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は入居者への呼び掛けについて職員には、「(おじいちゃん)などちゃん付けで呼ばないようにしている」と話し、そのように指導もしている。職員も入浴、排泄時は特に配慮しており、尊厳への対応も統一されている。守秘義務等に関して再度全員での話し合い、検討もすすめている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の重度化が進み、転倒し易かったり、意思確認が難しくなっている。職員は表情、サインなどで入居者がその日やりたいことを探り、起床、入浴、神社への散歩、デッキでの外気浴など、本人のペースで支援に努め、現状とのずれがあるとしてホームのスケジュールについても見直しを図ろうとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の献立は同法人の栄養士が作成したメニューを基本にししながら、食材を変更したり、差し入れの野菜で一品増やしたりと柔軟に提供している。職員も食べこぼしなどさりげなくケアし、笑い声のあがる楽しい食事風景である。夕食が誕生会になることもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者に毎日の入浴を勧め、夜間入浴にも対応できる。入浴に消極的な人もおり、時に強引な誘いになることもあるが、なるべく本人の意に添って支援している。車椅子使用者はデイサービスでの合間に出掛けていき、安心して心地よい入浴を提供している。季節により習慣上の菖蒲湯、柚子湯も行い、陳皮湯も考えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理の味見、盛り付け、食器拭き、洗濯物たたみ、草むしりなど自然に役割ができており、デイサービスでの書道教室に参加したり花見、芋煮会など家族と楽しむ機会もある。庭先の花壇は入居者一人ひとりにスペースがあり、節になれば花や実のなる野菜などを植え楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車椅子利用者もおり全員での外出支援が多くない現状はあるが、神社への散歩、ウッドデッキでの外気浴など、ホームに閉じこもらないように配慮し、ドライブなど外出の機会を増やしたいと努力している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ケアホームの玄関、居室に鍵を掛けないケアに取り組んでいる。他入居者の部屋に入り、物を持ち帰る人もいるが、職員は観察、見守りで対処し、入られた人の事後のケアにも配慮するなど影響が及ぼさないようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時でのホーム内での対応について、運営推進会議でも議論し、消防署の協力を得て夜間想定での避難訓練を実施している。また区長、民生委員にお願いし緊急時通報装置への登録を手配し、先日の誤作動の際にもいち早く駆けつけていただいた。今年度もう1回避難訓練を実施する計画がある。備蓄についても用意している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量は個別に記録し把握出来ている。法人内の栄養士さんが作成した献立を時にアレンジしながら、カロリー、彩り、栄養バランスにも留意し提供している。体重測定は1か月毎に実施し過度の増減がないようにしている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木材をふんだんに使い、リビング、廊下など広くゆったりと造作され、外気、陽射しも充分に取り入れられ、心地よい空間の広がりを感じられる。書道教室での書初めの作品を飾り、廊下の壁面にはひな飾りのタペストリーが吊るされ華やかである。リビング入口の鴨居には風邪予防のにんにくがおかれ、入居者は自分の居場所できつろいでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室毎に加湿器を置き季節から湿度の保持に配慮している。入居時に本人にとって馴染みの品の持ち込みを話し、居室内での配置についても相談し設えている。フラットな床面に畳も敷かれ、ベッドを据えても尚スペースに余裕があり、車椅子での動きもスムーズである。		